

「2024 年度学生生活アンケート」結果——満足度について

■分析方法■

「満足度」や「大学への帰属意識」に係る設問は 12 問あります（図 1 参照）。

各設問に対して、「あてはまらない」「ややあてはまらない」「ややあてはまる」「あてはまる」の 4 択で回答してもらいました。

分析では回答をポイント化し（「あてはまらない」=1, 「ややあてはまらない」=2, 「ややあてはまる」=3, 「あてはまる」=4）, その平均を過去 4 年の値と比較しました。

2024 年度は調査対象者数 570 名のうち回答が得られた 348 名（回答率 61.05%）の結果を分析しました。

■分析■

まず、2024 年度卒業生の在学中の満足度の推移（1 年生時（青）, 2 年生時（赤）, 3 年生時（緑）, 4 年生時（紫））をみると、年次が進むにつれて概ね満足度が高くなる傾向にあります（図 1）。2024 年度卒業生はコロナ禍に様々な制約のもとで大学生活を開始したためもあってか、本学への否定的感情（問 13）が比較的、高かった世代だが（1 年生時に 1.72）, 4 年生時には 1.46 まで低下しており、否定的感情をある程度、解消して卒業した様子がうかがえます。

図 2 で、過去 4 年における回答者全体の満足度の推移をみると、ほとんどの項目で年々、上昇している様子がみられます。とりわけ、女子大学らしさについてのポイント（設問 15～16）は顕著に高く、本学が打ち出す女子大学らしさを学生も肯定的に受けとめている様子がうかがえます。建学の精神の認知度（設問 17）は今後の課題です。

図 3 をみると、在籍している学年別の満足度は総じて年次が進むにつれ高くなる傾向にありますが、1 年生にポイントが低い設問 10（周囲に入学を勧めたいか）や設問 11（本学学生であることを誇りに思うか）は 2 年生, 3 年生でも低いままであり、今後の課題です。

図1 満足度（卒業生、在学中の推移）



図2 満足度の過去4年の推移（2021～2024年度、回答者全体）



図3 満足度の比較（学年別）

